

高取・壺阪フォトコンテスト

壺阪大仏 開眼記念

作品 募集中

平成20年5月1日

～

平成21年3月20日

壺阪寺・高取城跡・土佐街道・古墳群や高取町内の風景、四季、祭事、催事などを写真に撮ってコンテストに応募してみませんか？
人情豊かな「ひと」、文化豊かな「まち」をあなたの感動で伝えてください。

＊ ＊ 夢創館に応募用紙あります ＊ ＊

応募要項などお問い合わせは…

○入賞作品は読売新聞

富士フィルムイメージテック株式会社

紙上にて発表予定

富士フォトギャラリー大阪 06 6261-2323

主催 高取・壺阪フォトコンテスト実行委員会

越智公民館前	文政13年	松山春日神社境内	慶応2年
佐田春日神社境内	寛政8年	松山春日神社鳥居前右	文化2年
佐田春日神社境内	天保2年	松山春日神社鳥居前左	文政13年
観覚寺高皇産霊神社参道口		兵庫内記家北	文化10年
上子島	安政6年	田井之庄山田家南	文化6年
下子島 470 久保家西	明治12年	藤井天満宮鳥居前	享和元年
下土佐国府神社参道	文化14年	市尾天満神社前	寛政8年
清水谷東商店角入る	寛政10年	市尾曾羽	天保9年
吉備春日神社参道		市尾高井氏神社入口	明治31年
森交差点信号の東北	大正13年	丹生谷春日神社参道口	

奈良県内に遺存する近世石造物で、最も多いのは大神宮の燈籠であり、銘文に「大神宮」「天照皇太神宮」等がある。これは、伊勢参宮の記念碑であり、大和の国にあつて、しかも伊勢国・伊勢神宮へ奉納されたと思われる。
江戸時代の伊勢参宮は、群参をなしたものが、資料上では十数回ある。そのうち「おかげ年・おかげ参り」と呼ばれるものは、慶安三年、宝永二年、明和八年、文政十三年(1830)の四回あつたようで、特に文政十三年のおかげ参りでは、造建の盛り上がりはたいへんなもので、多くの燈籠が一斉に造られた。
荒井留五郎 編著 「奈良県の太神宮常夜燈」 参照
以下、高取町に現存する「大神宮常夜燈」です。

高取町に現存する「大神宮常夜燈」

町の中で、「大神宮」と彫りつけてある大きな燈籠を見かけますよね。その「大神宮」とは何だろう？と以前から思っていたのですが、『ふるさとを学ぶつどい』の古川さんに疑問を伺っていただきました。
常夜燈にはいろいろな形式がありますが、
町内にあるのは、ほとんどが《宮立形》です。



宮立形(壺阪形)